

- 問1 奈良時代、聖武天皇の時代を中心に栄えた文化について、仏教の影響を強く受け、唐の文化やシルクロードを経由した西アジアなどの影響も取り入れた、国際色豊かな文化の名称として正しいものを選びなさい。 (2024年 埼玉県公立入試 類似)
1. 飛鳥文化 2. 天平文化 3. 弘仁・貞観文化 4. 国風文化
- 問2 奈良時代、政府から民衆への直接の布教が禁じられていた中で、各地で橋やため池を築くなどの社会事業を行いながら、人々に仏教の教えを説いた人物は誰ですか。この人物は、後にその影響力の大きさを認められ、東大寺の大仏造営にも協力しました。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
1. 空海 2. 法然 3. 行基 4. 鑑真
- 問3 聖武天皇が東大寺に大仏を造立した歴史的な背景とその目的について説明したものととして、最も適切なものはどれか。 (2022年 神奈川県公立入試 類似)
1. 禅宗の影響を受けた当時の最新様式を取り入れ、武家社会の力強さを象徴する三層の建築物を造営しようとした。
2. 阿弥陀仏にすがって極楽浄土へ生まれ変われることを願う浄土信仰を、貴族や民衆の間に広く普及させようとした。
3. 大陸から招いた高僧に、僧侶が守るべき正しい戒律を授けるための正式な儀式の場を提供しようとした。
4. 伝染病の流行や政治的な混乱による社会不安を、仏教の力によって取り除き、国家を守ろうとした。
- 問4 東大寺にある、三角形の材木を組み上げた「校倉造」という建築様式の倉庫には、当時の国際交流を物語る工芸品が多数保管されています。この倉庫の名称と、そこで見られる国際的な特徴を持つ文化の名称の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)
1. 金閣 - 北山文化 2. 正倉院 - 天平文化 3. 平等院 - 国風文化 4. 法隆寺 - 飛鳥文化
- 問5 律令国家の政治組織において、天皇の下には祭祀を司る神祇官と、行政を統括する太政官が置かれました。この地方行政の仕組みにおいて、中央の都から派遣された「国司」のもとで、地元の有力な豪族が任命されて実務を担った役職は何と呼ばれますか。 (2023年 岡山県公立入試 類似)
1. 検非違使 2. 郡司 3. 県令 4. 防人
- 問6 奈良時代末期に成立した日本最古の和歌集で、大伴家持が編纂に関わったとされる作品を次から選びなさい。 (2023年 新潟県公立入試 類似)
1. 懷風藻 2. 万葉集 3. 古今和歌集 4. 新古今和歌集
- 問7 奈良時代に聖武天皇が仏教による国家の安定を目指した時期の状況について、正しく述べたものはどれですか。 (2017年 福岡県公立入試 類似)
1. 遣唐使が廃止されたことで、日本独自の生活様式に合わせた文化が栄えた
2. 桓武天皇が政治を立て直すために、都を現在の奈良市から京都に移した
3. 奈良の正倉院には、大陸との交流を示す国際色豊かな宝物が納められた
4. 東大寺の建立に反対した勢力を抑えるため、軍勢力を強化する政策をとった
- 問8 大化の改新以降の律令国家において、班田収授法により与えられた口分田の面積に応じて課された税のうち、収穫した稲の約3パーセントを納めることとされたものを何と呼びますか。 (2021年 山口県公立入試 類似)
1. 庸 2. 調 3. 雑徭 4. 租
- 問9 701年に制定された大宝律令などの律令制度において、天皇のもとで国政全般を司る最高機関として設置された名称を次の中から選びなさい。なお、この機関は明治初期の官制改革においても、古代の制度を模範として一時的に再興されました。 (2020年 山形県公立入試 類似)
1. 老中 2. 内閣 3. 摂政 4. 太政官
- 問10 1世紀の日本（倭）の王が中国の漢から授かった「漢委奴国王」と記された金印や、7世紀後半から8世紀前半にかけて日本で発行された「富本銭」と「和同開珎」について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2019年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 「漢委奴国王」の金印を授かったのは、3世紀に魏へ使者を送った邪馬台国の女王・卑弥呼である。
2. 「漢委奴国王」の金印は福岡県の志賀島で発見されており、当時の倭の勢力が中国の王朝と外交関係を持っていたことを示している。
3. 「富本銭」は、708年に武蔵国から銅が献上されたことを記念して発行された日本最古の貨幣である。
4. 「和同開珎」は、天武天皇の時代にまじないや儀式用として初めて鑄造された貨幣である。
- 問11 奈良時代、相次ぐ疫病や政治的な混乱による社会不安を鎮めるため、聖武天皇が仏教の力で国家の安定を図ろうとした政策について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 広島県公立入試 類似)
1. 大陸から伝わった鉄器や青銅器の製造技術を独占し、全国の主要な拠点到に工房を設置した。
2. 下剋上の風潮を抑えるために、各地域の農民が中心となった寺院による自治を認めた。
3. 全国の国ごとに国分寺・国分尼寺を建立し、都には総本山として東大寺を建てた。
4. 地方の治安を維持するために、全国の国ごとに守護を、公領や荘園には地頭を設置した。
- 問12 奈良時代の租税制度の一つである「調」について、その負担の仕組みを正しく説明しているものはどれですか。 (2019年 大分県公立入試 類似)
1. 年間で60日を限度として、地方の国司の命令により土木工事などの労働に従事した。
2. 口分田の収穫から約3%の稲を納めるもので、主に地方の役所の倉庫に保管された。
3. 地方の特産品を都まで直接運んで納めるもので、その運搬にかかる費用や食料は民衆の自己負担であった。
4. 都での労役の代わりに布を納めるもので、都までの運搬費用は国が負担した。
- 問13 8世紀初めの大宝律令が制定された頃、日本は大陸の先進的な国家に大規模な使節を派遣しました。この使節が、当時の中国の王朝から進んだ制度や文化を日本に持ち帰り、日本の国家の仕組みを整える上で重要な役割を果たしたものを何と呼びますか。 (2023年 広島県公立入試 類似)
1. 遣唐使 2. 勘合貿易船 3. 遣隋使 4. 朝鮮通信使
- 問14 奈良時代の税制度について、平城宮跡から出土した「塩三斗」や「海藻六斤」といった記述がある木簡（荷札）が証明している税の仕組みとして、正しい説明はどれですか。 (2026年 山口県公立入試 類似)
1. 都での労役の代わりとして、麻布などを都へ運んで納める仕組み。
2. 地方の特産品を都まで運び、中央政府の財源として納める仕組み。
3. 口分田の面積に応じて、収穫した稲の約3%を地方の役所に納める仕組み。
4. 地方の国府において、年間60日を限度として土木工事などの労働に従事する仕組み。
- 問15 大宝律令が制定された飛鳥時代後半から奈良時代にかけて、律令国家は戸籍に基づいて人々に土地を割り当てました。班田収授法により、6歳以上の男女に与えられ、その人が亡くなると国に返還することとされた耕作地を何といいますか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 口分田 2. 墾田 3. 名田 4. 荘園

答え合わせ・解説

問1	答え 2 天平文化	聖武天皇は仏教の力で国家の安定を図る「鎮護国家」の思想を推進しました。遣唐使によってもたらされた唐の進んだ文化や、さらに西方の国際的な要素が融合し、平城京を中心に華やかな文化が展開されました。これが天平文化です。
問2	答え 3 行基	行基は、当初は僧尼令に背いて民衆に布教したとして弾圧されましたが、橋の建設やため池の整備といった社会事業を通じて民衆から絶大な支持を得ました。聖武天皇は、東大寺の大仏造営に必要な膨大な労働力や資金を集めるために、民衆に顔が広い行基の力を必要とし、彼を大僧正として迎えて協力を求めました。
問3	答え 4 伝染病の流行や政治的な混乱による社会不安を、仏教の力によって取り除き、国家を守ろうとした。	聖武天皇の時代には、天然痘の流行や凶作、政治的な対立による反乱が相次ぎました。これらに対し、天皇は仏教を厚く信じることで国を守る「鎮護国家」の思想を掲げ、平和と国家の安定を願って大仏造立の詔を出しました。
問4	答え 2 正倉院 – 天平文化	聖武天皇の時代を中心に栄えた、仏教の影響が強く国際色豊かな文化を天平文化と呼びます。その代表的な遺物を収めているのが東大寺にある正倉院です。校倉造は、湿度の変化に合わせて木材が伸縮することで中の品物を守る工夫がなされた建築様式です。飛鳥文化は推古天皇の時代の文化、国風文化は平安時代中期、北山文化は室町時代の足利義満の時期の文化であり、それぞれ特徴が異なります。
問5	答え 2 郡司	律令国家の地方支配は、国・郡・里という単位で行われました。中央から派遣された国司が「国」の政治を監督し、その下の単位である「郡」では、地元の状況に詳しい豪族が「郡司」に任命されて、租税の徴収や戸籍の管理などの実務を担当しました。これにより、中央政府の命令を地方の末端まで浸透させようとしたのです。
問6	答え 2 万葉集	奈良時代を代表する文化遺産であり、約4,500首の歌が収められています。平安時代に編纂された初の勅撰和歌集である『古今和歌集』や、鎌倉時代の『新古今和歌集』と時代の区別をつけることが重要です。また、『懷風藻』は日本最古の「漢詩集」であり、和歌集である本作とは区別されます。
問7	答え 3 奈良の正倉院には、大陸との交流を示す国際色豊かな宝物が納められた	聖武天皇は東大寺に大仏を造営し、国ごとに国分寺・国分尼寺を建てるなど、仏教の力で国を治めようとしたのです。正倉院はこの時期の文化的な中心であった東大寺の倉の一つであり、当時の国際的な広がりや象徴する場所です。桓武天皇や遣唐使の廃止は、奈良時代よりも後の平安時代に関連する事象です。
問8	答え 4 租	律令制度における税制の基本は、戸籍に基づいて人々に口分田を貸し与える代わりに、税を徴収する仕組みでした。このうち、収穫した稲の一部を納めるものは「租」と呼ばれます。租として納められた稲は、地方の役所である国衙（こくが）などの倉庫に蓄えられ、主に地方政治の財源として利用されました。
問9	答え 4 太政官	律令制度において行政の最高責任を担った太政官は、明治維新後の新政府でも再び採用されました。これは新政府が、天皇中心の政治を目指す上で、かつての律令国家の仕組みを理想的なモデルとしたためです。1885年に内閣制度が発足するまで、この太政官が最高機関としての役割を果たしました。
問10	答え 2 「漢委奴国王」の金印は福岡県の志賀島で発見されており、当時の倭の勢力が中国の王朝と外交関係を持っていたことを示している。	1世紀（紀元57年）に倭の奴国の王が後漢の光武帝から授かったのが「漢委奴国王」の金印です。貨幣については、1990年代の調査により、天武天皇の時代の「富本銭」が、708年に発行された「和同開珎」よりも古い日本最古の貨幣であることが確認されました。卑弥呼が授かったのは「親魏倭王」の称号であり、時代も3世紀のため、1世紀の金印とは異なります。
問11	答え 3 全国の国ごとに国分寺・国分尼寺を建立し、都には総本山として東大寺を建てた。	聖武天皇は、仏教の教えによって国を護る「鎮護国家（ちんごこっか）」の思想に基づき、社会の混乱を収めようと考えました。その一環として、741年に「国分寺建立の詔（みことのり）」を出し、全国の令制国ごとに国分寺と国分尼寺を建てることを命じました。また、都の平城京にはこれらの総本山となる東大寺を建立し、巨大な大仏を造立しました。
問12	答え 3 地方の特産品を都まで直接運んで納めるもので、その運搬にかかる費用や食料は民衆の自己負担であった。	律令制下の税のうち、「租」は収穫した稲を地方の倉庫に納めるものでしたが、「調」や「庸」は遠く離れた都まで歩いて運搬して納める必要がありました。この運搬にかかる費用や道中の食料はすべて納税者本人が負担しなければならず、当時の民衆にとって肉体的・経済的に非常に重い負担となっていました。選択肢にある稲の徴収は「租」、労役の代わりに布は「庸」、地方での労働は「雑徭」の説明です。
問13	答え 1 遣唐使	大宝律令によって律令国家としての形が整えられた時期、日本は中国の「唐」の優れた統治システムや仏教文化を直接学ぶために使節を派遣しました。これが遣唐使であり、持ち帰られた知識は平城京の建設や政治組織の構築に大きく貢献しました。遣隋使はそれ以前の「隋」に送られたものであり、朝鮮通信使は江戸時代のものです。
問14	答え 2 地方の特産品を都まで運び、中央政府の財源として納める仕組み。	木簡に記された「塩」や「海藻」は、その土地ならではの特産品を納める「調」に該当します。この税は、布を納める「庸」とともに、成年男子（正丁など）が都まで直接運搬して納めることが義務付けられていました。一方、稲を納める「租」は地方の倉庫に保管され、地方官庁の運営費などに充てられたという違いがあります。
問15	答え 1 口分田	律令制のもとでは、土地と人民は国家のものとする「公地公民」の原則がありました。班田収授法はこの原則に基づき、戸籍に登録された6歳以上の人々に、その身分に応じて耕作地を貸し出し、死後は国に返還させる仕組みです。これにより、国家は安定した税（租）の徴収を目指しました。